

分科会	小6年	都市名	岡崎
提案者	岡崎市立藤川小学校		杉田浩史

### 1 研究主題

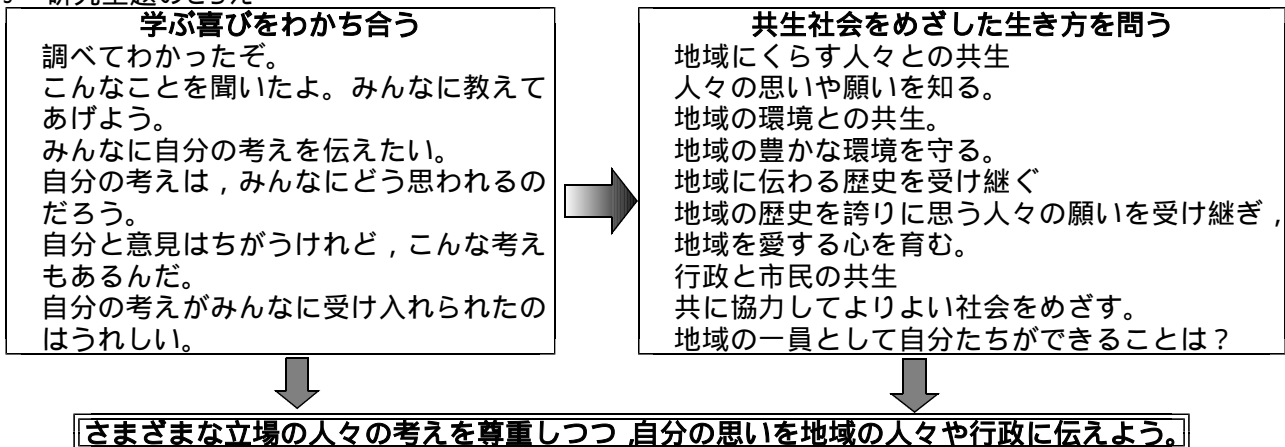
『学ぶ喜びをわかち合い，共生社会をめざした生き方を問う社会科の授業』  
～ 6年 「地域の特色を生かしたまちづくり」の実践を通して～

### 2 はじめに

岡崎市の社会科部は研究主題『学ぶ喜びをわかち合い，共生社会をめざした生き方を問う社会科の授業』を受け，2年間研究を重ね，本年度3年次を迎えた。この2年間の研究を通して得られた成果と残された課題は，次に示す通りである。

<実践単元>	1年次・・・6年「戦国大名 徳川家康の生き方」 2年次・・・4年「鴨天大祭と青木川のつけかえ」
<成果>	・身近な地域素材を教材化することによって，子どもたちの追究活動への意欲を高めることができた。（1年次，2年次） ・題材を取り巻く社会情勢を総合的に判断したり，自らを様々な立場に置き換えて考えたり，する場面を設定することで，子どもたちは，家康と自分の生き方を対比することができた。（1年次） ・鴨天大祭と青木川のつけかえという二つの事象を深く追究して，話し合いを重ねることにより，「共生社会をめざす考え」を構築し，自らの生き方を見直すことができた。（2年次）
<課題>	・事象を追究することによって生まれる社会認識と，現実社会とをいかに重ね，結びつけるかが「共生社会をめざす力」を育む上で課題となった。

### 3 研究主題のとらえ



3年次である今年度は，昨年度までの研究で課題として残った「共生社会をめざす上で生まれた社会認識を生かして現在の生活を見直し，現実社会に結びつけることができる授業」の実現をめざし，実践に取り組むことにした。今年度では，公民的分野「地域の特色を生かしたまちづくり」（6年）を研究単元とした。

児童がくらす藤川の町は，約400年前，江戸時代に制定された東海道の37番目の宿場であった町である。藤川は，現在もたくさんの史跡や寺社仏閣など歴史的な物が残っている。

しかし，児童は，藤川宿の歴史的遺産を守ろうと努力されている地域の人々や行政の働きについてはあまり意識していない。道の駅や地域交流センターを作ろうとしている藤川の開発計画のことも誰も知らなかった。このような児童に，この単元を通して，藤川宿の価値を再認識させ，それらが多くの地域の人々の努力や行政の働きで保存，再現されていることを考えさせたい。

そして，藤川宿を整備し後世に伝えようとしている人々や行政の活動を調査することにより，児童自身が，その願いや思いに共感し，誇りを持って受け継ごうとする共生の心を育むことをねらいの一つとした。さらに市議会，選挙，税金などの学習を通して，公共施設の建設など国民生活には地方公共団体や国の政治の働きが反映していることをしっかり押さえたい。

児童は，自分で調べたり，聞いたりすることによって，わからなかったことがわかるようになると，学ぶ喜びを感じる。自分の考えが他者に受け入れられた場合，さらなる学習の意欲や問題追究につながっていく。このように学習活動において，他者と関わることは大きな意味がある。自分の意見が必ずしも他者に受け入れられる訳ではないが，地域の人々や仲間の考えを知り，自分の考えを主張して話し合うことで，この世の中には，一つの社会的事象に対してでもさまざまな考えがあることを児童は感じるようになる。子どもだからまだ何もできないと思うのではなく，自分たちも地域社会の一員として，意見を述べ，まちづくりに関わるができるという意識を育みたい。その思いが大人になったときに積極的に政治に関心を持ったり，地域の活動に力を尽くしたりすることにつながるであろうと思われる。

地域住民が安心してくらすことができる共生社会の実現に向けて、自分たちの力でも役立つということをこの研究で児童に感じさせたい。

#### 4 研究の目標

藤川宿を守るために大きな働きをした先人の業績や優れた宿場の歴史的文化遺産について興味・関心と理解を深めるようにするとともに、地域の歴史や伝統を大切に、地域を愛する心情を育てるようにする。

地域の特色を生かしたまちづくりという社会的事象を具体的に調査したり、各種の資料を効果的に活用したりして共生社会をめざした生き方をより広い視野から考え、地域の一員としての自覚を持つことができるようにする。

#### 5 研究の仮説と手立て

##### (1) 研究の仮説

社会科の学習指導において、地域の歴史や地域のまちづくりを教材化し、調査・追究活動を行っていけば、自分の生活に関わることだけに、問題意識を常に持ちながら意欲的に学習を進め、地域を愛する心情を育てることができるであろう。

地域教材を扱うことは、学びそのものが児童の生活や環境と深く結びついた授業を展開することができる、自分たちの力で積極的に調査、追究活動を行うことができる。その中から、新たな発見や驚きを見いだしたり、地域に暮らす人々の切実な思いに触れたりすることで児童は、「学ぶ喜び」を感じ、地域を愛する心情も育てることができると思われる。

まちづくりに関して、行政、地域住民などさまざまな立場の人々の多種多様な考えを調査した上で、集めた声や情報を共有する場を作れば、児童は、自分が調べたこと以外にもたくさんの資料を検討して、自分の考えをより深めながら構築することができるであろう。

藤川のまちづくりに関しての資料を取材活動、市役所訪問、インターネット、地域のアンケート調査など、さまざまな方法でたくさん集めたい。その集めた資料は、教室の後ろに作った資料コーナーのみで共有することができるようにする。授業でも情報交換を積極的に行う。

藤川の町をこれからどうしていくかは、地域の人々の課題でもあり、将来この町で生きる児童にとっても直接かわる重要な問題である。まず、藤川にある公共物が建設される過程を学習することで、政治の働きをしっかりと学習したい。その後、よりよいまちづくりを願う人々の活動を知ったり、新しい藤川のまちづくりについて、さまざまな人々の考えを聞いたりする活動を通して、児童にも自分なりの考えを構築させたい。

学習のまとめの段階で、話し合い活動を行って自分たちの考えを練り合い、その思いを地域社会に訴えていけば、子どもたちは、自分たちが学習したことの意義を感じ、共生社会をめざす地域の一員としての自覚を深めることができるであろう。

構築した自分の考えを表現し、話し合い活動の中で友達と意見交換をすることにより、自分と異なる視点や立場を認め合いながら、自分の考えを見つめ直すことができるようにしたい。

話し合いを重ねた後に自分の意見を再構築し、最終的には、児童が考えた道の駅建設に関する意見書を岡崎市の「まち・みち創造交流プロジェクト検討会」に提出することをめざしたい。大人任せだけではなく、自分たちも藤川の町を作る一員としての意識を持ち、そのために自分たちができることについても考えられるようにしていきたいと願う。その意識が共生社会をめざす生き方につながるとと思われる。

##### (2) 手立て

仮説 学ぶ喜びをわかち合い、問題意識を持った意欲的な学習を進め、地域を愛する心情を育てるために。(目標を実現するために)

地域の歴史を教材化

現在進行中の地域のまちづくりを教材化

仮説 問題に対して、資料や人々の声をもとに、自分の考えを構築するために。

(目標の実現するために)

資料や人々の声を集めるためにパソコンやPHSなどのメディアの活用

市役所訪問、「まち・みち創造交流プロジェクト検討会」訪問

地域の人に生の声を直接聞く訪問調査活動。その声を集約して全員の共通資料とする。

児童それぞれが集めた資料を共有することができる資料コーナーの設置

仮説 共生社会をめざした生き方を考え、自分も地域の一員と感じられるようにするために。

(目標の実現するために)

自分と異なる考えをお互いに認め合う話し合いやプレゼンテーションの場の設定

藤川のまちづくりについて、まち・みち創造交流プロジェクトに意見書提出

6 単元計画

学習活動と内容	指導上の留意点						
<p><b>藤川宿を紹介する資料館などの公共施設の建設はどのようにして進められたのかな。(7)</b></p> <p>○町へ出て調査に行こう。「藤川宿公共ウオッチング」(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>資料館の立て札に「藤川宿まちづくり研究会」って書いてある。藤川の人が作ったの？</li> <li>駐車場や石碑、立て札など新しく作られたものがたくさんある。</li> </ul> <p>○藤川宿資料館の建設や藤川宿整備について調べよう。(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>藤川宿の俳句作りでお世話になったまちづくり研究会のM先生に聞いてみよう。</li> <li>市役所にたずねよう。(手紙、電話、メール、訪問)</li> <li>藤川宿の魅力を生かした新しいまちづくりの計画もあるそうだよ。</li> </ul> <p>○藤川宿が今のよう整備されるまでに市議会で何が話し合われたのか調べよう。(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>わたしたちの代表である議員さんが議会に出て話し合いを行っている。</li> </ul> <p>○選挙の大切さを考えよう。(1)</p> <p>○藤川宿整備に関する予算を調べて税金の働きを調べよう。(1)</p> <table border="1" data-bbox="295 622 1007 712"> <tr> <td>・藤川宿駐車場整備で 4600万円。</td> <td rowspan="3" style="text-align: center;">⇒</td> <td>たくさんお金がかかっている。</td> </tr> <tr> <td>・棒鼻建設で 1100万円。</td> </tr> <tr> <td>・歌碑建設で 270万円。</td> </tr> </table> <p>・市だけでなく県や国もお金を出している。→ ○国会の働きを調べよう。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <table border="1" data-bbox="295 779 986 869"> <tr> <td>「藤川の歴史的遺産を多くの人に知らせたい」という藤川の人々の願いがあって藤川宿が市や県や国の力で整備されたんだ。費用は税金からまかなわれている。</td> </tr> </table>	・藤川宿駐車場整備で 4600万円。	⇒	たくさんお金がかかっている。	・棒鼻建設で 1100万円。	・歌碑建設で 270万円。	「藤川の歴史的遺産を多くの人に知らせたい」という藤川の人々の願いがあって藤川宿が市や県や国の力で整備されたんだ。費用は税金からまかなわれている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>校外へ調査活動に出かけるときは、班ごとにPHSを持たせて、随時連絡を取り合う。安全確認を確実にやる。</li> <li>礼儀正しく質問をすることができるよう、手紙の書き方、電話の仕方などをあらかじめ十分に指導する。</li> <li>藤川資料館の建設には、地域の人々の努力が根底にあったことを共通理解する。</li> <li>国や市町村の代表者は、選挙で選ばれることを指導する。</li> <li>さまざまな公共物の建設費用がわたしたちが払っている税金からまかなわれていることを指導する。</li> </ul>
・藤川宿駐車場整備で 4600万円。	⇒		たくさんお金がかかっている。				
・棒鼻建設で 1100万円。							
・歌碑建設で 270万円。							
「藤川の歴史的遺産を多くの人に知らせたい」という藤川の人々の願いがあって藤川宿が市や県や国の力で整備されたんだ。費用は税金からまかなわれている。							
<p><b>藤川の特徴を生かした「道の駅」建設計画について調べよう。(4)</b></p> <p>○「道の駅」って何？その役割や藤川に作られる計画を調べよう。(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>まち・みち創造交流プロジェクトにかかわっている人にお話を聞こう。</li> <li>資料やホームページで調べよう。</li> <li>国道1号線沿いに道の駅ができるんだ。国道1号線沿いでは、愛知県初だって。</li> <li>東部地域交流センターは、平成22年開館予定だって。</li> <li>建設費用は、まだわからないけど、たくさん土地が必要だから田んぼをいっぱい売ってもらわなければならないって。</li> <li>これまでにできている道の駅についても調べよう。</li> </ul> <p>■大きな計画でたくさん人がかかわっている。藤川に住んでいる人の生活も変わってくるかもしれない。市のほかに、国もかかわっているんだ。</p> <p>○藤川の特徴を生かした道の駅建設計画について、藤川の人々の意見を集めるためにみんなで話し合っアンケートを作ろう。(1)</p> <p>○訪問してアンケートをお願いしよう。(課外)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>藤川小の保護者にもお願いしよう。子どもたちの声も集めよう。</li> <li>アンケートを集計してわかりやすくまとめよう。(1)</li> </ul> <p>■いろいろな願いがある。みんな藤川を大切に思っている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教室の後ろに資料コーナーを作り、児童が入手しにくい資料を置く。</li> <li>市東部地域の活性化を目的とする「まち・みち創造交流プロジェクト検討会」の2回分の会議資料を資料コーナーに置いておく。</li> <li>道の駅計画には、岡崎市だけでなく、国土交通省もかかわっていることを指導する。</li> <li>集まったアンケートの声をグラフ化してわかりやすくまとめるよう指導する。</li> </ul>						
<p><b>道の駅建設に関して話し合い、自分たちの考えをまとめて市に提案しよう。(4)</b></p> <p>○道の駅ができることについて、自分の考えをまとめよう。(1)</p> <table border="1" data-bbox="295 1503 1034 1608"> <tr> <td>○道の駅を藤川の発展に生かしていくためにはどうしたらよいらうか。(本時①)</td> </tr> <tr> <td>期待すること●藤川が有名になり宿場としての歴史的遺産を伝えることができる。 不安なこと▲田畑がつぶされ車が増えることにより生活環境が悪くなる可能性がある。</td> </tr> </table> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>○不安なことを減らすにはどうすればよいらうか？</p> <p>■環境を大切にしたい道の駅になってほしいな。</p> <table border="1" data-bbox="295 1704 1034 1832"> <tr> <td>○道の駅を藤川の発展に生かしていくためには何が作られるとよいらうか。(1)</td> </tr> <tr> <td>・道の駅に藤川ゆかりのむらさき麦の馬作りなどが体験できる工芸館ができるといい。 ・宿場としての役割を紹介したいので、昔の藤川宿の旅籠や問屋場を再現してほしい。 ■藤川の歴史的なよさが道の駅を訪れる人にわかるといいな。</td> </tr> </table> <p>○みんなの考えをプレゼンテーションソフトを使ってわかりやすくまとめよう。(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>環境面もよく考えて開発を行ってほしい。例えば敷地内にむらさき麦畑を残す。</li> <li>道の駅でのアイドリングストップを呼びかけるポスター作りならできる。</li> <li>歴史的な遺産は、地域の人々といっしょに自分たちで守っていきたい。</li> </ul> <p>■クラスみんなの声が市に届いて、まち作りに役立つといいな。</p> <p>■大人になってもこの気持ちを持って、藤川のまちをよくしていきたいな。</p>	○道の駅を藤川の発展に生かしていくためにはどうしたらよいらうか。(本時①)	期待すること●藤川が有名になり宿場としての歴史的遺産を伝えることができる。 不安なこと▲田畑がつぶされ車が増えることにより生活環境が悪くなる可能性がある。	○道の駅を藤川の発展に生かしていくためには何が作られるとよいらうか。(1)	・道の駅に藤川ゆかりのむらさき麦の馬作りなどが体験できる工芸館ができるといい。 ・宿場としての役割を紹介したいので、昔の藤川宿の旅籠や問屋場を再現してほしい。 ■藤川の歴史的なよさが道の駅を訪れる人にわかるといいな。	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域の人々の願いが公共施設建設の源であるので人々の声を十分尊重して考えるよう指導する。</li> <li>藤川に道の駅ができた場合に期待されることと不安に思われることを考え、話し合わせる。</li> <li>他の宿場や道の駅の例も参考にさせる。</li> <li>道の駅を藤川宿の発展に生かすということを重要視点にして話し合いが進むように助言する。</li> <li>代表者がアンケートの集計と自分たちの意見書を「まち・みち創造交流プロジェクト検討会」に持って行く。</li> </ul>		
○道の駅を藤川の発展に生かしていくためにはどうしたらよいらうか。(本時①)							
期待すること●藤川が有名になり宿場としての歴史的遺産を伝えることができる。 不安なこと▲田畑がつぶされ車が増えることにより生活環境が悪くなる可能性がある。							
○道の駅を藤川の発展に生かしていくためには何が作られるとよいらうか。(1)							
・道の駅に藤川ゆかりのむらさき麦の馬作りなどが体験できる工芸館ができるといい。 ・宿場としての役割を紹介したいので、昔の藤川宿の旅籠や問屋場を再現してほしい。 ■藤川の歴史的なよさが道の駅を訪れる人にわかるといいな。							

## 7 研究の実践

### (1) 児童A 児童B (抽出児) の実態

児童Aと児童Bを抽出児とし、意識の変容を追いながら述べていきたいと思う。

児童A 自分の考えは、しっかり持っているが、普段の授業や話し合いの場では、控えめな児童である。宿場の端にある歴史的なモニュメント東棒鼻のとなりに家があり、藤川宿に関する関心は高い。

児童B 自分が調べたことに関しての発言は多いが、友達の意見に対しての発言は少ない。家が国道1号線のすぐ南で道の駅建設予定地にも近いので切実感を持っている。

### (2) 藤川宿を紹介する資料館などの公共施設の建設はどのように進められたのか追究する子どもたち

#### 藤川宿公共ウォッチング

第1時と2時では、「藤川宿公共ウォッチング」とテーマを決め、藤川宿にある公共物を探しに、町へ出て、自分の足で調査活動を行った。調査した内容は、現地からPHSを使って写真を撮り、文章を打ち込んでブログを作成した。そのブログは、お互い外でも見ることができるので、各班は、情報を交換しつつ調査活動を行った。

これまで歴史の学習で藤川宿を調査したことはあるが、それが公共のものかどうか意識している児童は少なかった。

児童A、Bは授業後に以下のような感想を書いた。

A 藤川宿に残る歴史的な建物、お寺などは、みんな公共のものだと思っていた。自分の家の入り口にある宿場の入り口の印である「東棒鼻」について誰が作ったものなのか、いくらぐらいお金がかかっているのか知りたい。

B 藤川には、小学校、公園、地下道、公民館などたくさんの公共施設があった。藤川宿資料館や西棒鼻も公共のものだということがわかった。公共のものは意外に近くにたくさんあった。

学級内には、藤川宿資料館や史跡の近くに立っている立て札に注目して、追究を行いたいと話す児童が多かった。



PHSで宿場の史跡を撮影する児童

藤川宿資料館の建設や藤川宿整備について調べよう。

第3時から、藤川宿公共ウォッチングで出てきた疑問を個別に追究した。もう一度現地に赴き調査をする児童や「藤川宿散策のしおり」という資料をもとに、調べを行う児童がいた。また、史跡の立て札に書いてあった「藤川宿まちづくり研究会」という名前に注目して、研究会のメンバーであるM先生に電話で取材をお願いした児童もいた。児童Bは、M先生に「藤川宿資料館は、何のために作られたのか？」と質問を投げかけていた。M先生からいろいろとお話をうかがい、「藤川の歴史的な遺産を保存したい」という草の根的な活動がまちづくり研究会の発足理由であったことがわかった。地域の人の願いが根本にあって、藤川資料館の建設が進んでいったことがわかった。

児童は、藤川資料館が建設されるまでを調べてまとめた。資料館は、岡崎市教育委員会が愛知県の方振興事業補助金を受け、工費662万円で現地に建てたことがわかった。藤川宿街道模型の費用は600万円であった。

児童Aは、宿場整備にかかる他の予算にこだわりを持っていた。立て札、石碑などの細かい整備予算は、手持ちの資料ではわからなかった。そこで児童Aは、M先生に教えていただいた市役所の都市計画課へ連絡を取り、実際に訪問して、お話をうかがうことになった。

都市計画課で、細かい資料をもらい、宿場の整備にどれだけの予算が使われているのか、はっきりすることになった。予算の情報が公開されていることに関して訪問した児童たちは市の姿勢に感心していた。集めた資料は、資料コーナーに置き、全員で共有した。



市役所都市計画課で話を聞く児童A

A 市役所の人いろいろな情報を教えてくださいました。いろいろな資料をくれたので、とても役に立ちました。市役所で使ったお金などが公開されているのには、びっくりしました。情報など大切なものを公開していることはないと思ったからです。たくさんの資料のおかげで、みんなにも教えられたので、とてもよかったです。(市役所訪問後の感想)

B 一つの願いがかなうまでにたくさんの人でたくさん話し合い、お金がいろいろかかっていることがわかった。こんなに時間があるなんて初めてわかった。大変だなと思った。(藤川宿資料館ができるまでを調べて)

藤川宿整備に関する予算をもとに、税金の働きを調べよう。

児童Aらが市役所でもらってきた藤川宿整備の資料をもとに児童は、思っていることを出し合い、話し合いを行った。

**資料1 藤川宿整備予算資料の一部**

平成4年度	東海道藤川宿棒鼻	11,124,000円
平成7年度	東海道藤川宿歌碑	2,752,160円
平成9年度	東海道藤川宿棒鼻修繕	1,134,000円
平成17年度	案内板設置(7箇所)	1,848,000円

藤川宿整備に予想以上のお金がかかっていることに多くの児童は驚いていた。C3の児童のようにむだなお金という率直な意見もあったが、C4、C5の意見のように藤川宿発展のためには、必要なお金ととらえている児童もいた。

児童Bは、このお金の出所について疑問を持ち、この後の税金の学習への足がかりとなった。

児童Aは、市役所で調べてきた藤川宿整備の合計予算を発表した。億を超える予算におどろきのつぶやきの声がたくさんあがっていた。

その後、税金の集められ方や税金の種類、税金の使われ方を順に学習した。まとめて税金がなかったら困ることを話し合った。児童Aと児童Bは、授業後の感想を以下のように書いていた。税金で市や県が藤川宿を美しく整備していることを理解していた。

- A 税金がなかったら藤川宿はボロボロ。東&西棒鼻、資料館、駐車場もなくなる。藤川宿は税金がなくなるとなにもなくなってしまふ。
- B 昔から「税金って何ではらうんだろ？高い？はらわん方がいい？」と思っていたけど身の回りの大切な物に使われているのを知って、税金がないと大変なことになることがわかった。だから税金は大切だと思った。

**資料2 授業記録 第7時(一部)**

- T1 昨日藤川宿整備の予算のことを調べに市役所へ行きました。この予算の資料を見て思ったことは？
- C1 思ったよりお金がかかっている。  
C2 立て札が4つでもすごい高い。  
C3 これはむだだと思います。
- T2 それに関して。  
C4 藤川宿のことを考えてやってくれているんだからぜんぜんむだじゃないと思う。  
C5 藤川がよくなるからいいと思う。
- C6(児童B) どこからこんなお金が入ってくるのか。  
C7 市の予算。  
C8 予想だったら十万とか百万ていどだったけど、一千万をこえていたのもあっておどろいた。  
C9 松並木の石は何でそんなに高いのだろう。  
C10 物を最初から作るのではなくて整備だけでお金がかかっている。  
C11 整備でこれだけお金がかかるなら、これからまだお金がかかると思う。
- T3 市役所で聞いてきた藤川宿整備の予算の合計教えて。  
C12(児童A) 棒鼻とか歴史国道整備とか全部合わせて1億8803万9673円  
C13 すごい。  
C14 お金は、どこから出てるの。  
C15 市役所で聞いたけど、国が半分で、市と県も出している。  
(以下略)

**(3) 藤川の特徴を生かした「道の駅」建設計画について調べる子どもたち**

「道の駅」って何？藤川はどう変わるの？

これまでの藤川宿整備事業を調べる中で、児童は、「まち・みち創造交流プロジェクト」という岡崎市東部地域の活性化を目的とする新しいまちづくり検討会があることを知った。以前にお話を聞いた藤川宿まちづくり研究会のM先生や学区の総代さんも委員であることがわかった。

子どもたちは、この新しい藤川のまちづくり計画、特に「道の駅」建設に興味を示し、追究を始めた。「まち・みち創造交流プロジェクト」の委員さんに話を聞いたり、国土交通省や岡崎市の企画調整課のホームページから情報を集めたりして、道の駅に関する資料を集めた。教室の後ろにある資料コーナーには、これまで児童が集めた資料と共に、児童の力では集めにくい資料は教師が置いた。

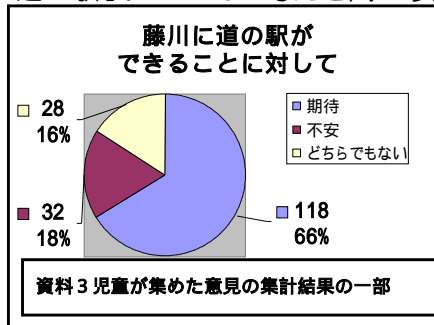
児童Aは、企画調整課のホームページから「まち・みち創造交流プロジェクト通信」という資料を探し出し、藤川の新しい開発について情報を集めた。また、自分が訪れたことがある「デンパーク安城」と「どんぐりの里いなぶ」の2つの道の駅を調べ、道の駅の役割について理解を深めた。

全国各地に845駅ある道の駅にPHS電話を使って直接取材をする児童もいた。児童Bは、ホームページからさがした道の駅「クロス10十日町」が地震の際の避難場所になった点について取材するために新潟の道の駅に電話をかけた。その時の児童Bの感想である。

- B 愛知県内以外へ電話をするのは、初めてですごくドキドキしました。新潟の人は、急に電話がかかってきてもすぐ答えてくれたのですごくいいと思いました。食料や生活に必要なものが道の駅に集まり、道の駅が避難所になって人々の役に立ったことを確かめることができました。

藤川学区にある家を訪問して「道の駅」についての考えを聞こう。

前時までの追究により、藤川の道の駅建設計画や道の駅についての情報は、かなり集まったが、大切な藤川の住民の意識が全くわからなかった。藤川に道の駅が作られることに関して、藤川に住む人々は、どのような考えを持っているのかを知るためにアンケート作成した。児童は、そのアンケートを持って、直接、個々の家を訪問して取材を行った。藤川学区の全地区から平均的に声を集められるよう、班ごとに担当地区を決めて取材に出か



藤川に道の駅ができることに関して地域の方に意見を聞く児童

けた。前もって何も約束をしない、飛び込み訪問で取材を行った。このような経験は、初めての子どもが多く、初めのうちは、とまどいを見せていたが、みな勇気を出して、玄関のベルを押し、たくさんの人と話をした。アンケートは、計178枚集められた。アンケート結果は、集計され、今後の話し合いの根拠となりうる貴重な共通資料となった。以下は、学区の人に対して、訪問して「道の駅」アンケートをした感想である。

- A 初めてアンケートをほかの家の人をお願いしてやってもらった。中には「道の駅って何？」と聞く人や「そんなことわからない」という人が多くいたけれど「あそこに道の駅ができる予定でしょ。」と知っている人も多くいた。道の駅建設に「期待している」と答えた人はとても多く「ちょっと不安」と答える人は2、3人でした。ほとんどの人が期待しているんだなと思った。
- B 意外に藤川の道の駅計画を知っている人が多かったのでびっくりした。道の駅ができることに期待している人が多かった。やっぱり藤川にお店とかがあると便利なのかなと思った。道の駅に藤川の案内板をつけたら？という答えが多かった。

**(4) 道の駅建設に関して話し合い、資料4 授業記録第13時(一部)「藤川に道の駅ができると不安なこと」自分たちの考えを持ち始めた子どもたち**

道の駅を藤川の発展に生かしていくためにはどうしたらよいだろうか。

これまで調べたことをもとに学級で「道の駅を藤川の発展に生かしていくためにはどうしたらよいだろうか。」をテーマに話し合いを行った。道の駅建設で期待することと不安なことを出し合った後、不安なことを減らすにはどうすればよいかを話し合った。

右の資料にあるように児童Aは、不安なことで発言をした。C38、43にあるように児童Aは、今の藤川によさ、「自然豊かな宿場町」にこだわりを見せた。続けてC44～46にあるような藤川宿の歴史を大切にしたい意見が続いた。

「不安なことを減らすには？」の問いに児童BはC52で「M君の不審者の増加についてですけど、派出所を作ったらいい。お父さんの意見です。」と答え、家族も不審者の増加を心配し、派出所の設置を要望している点をみんなに訴えた。

児童Aは、C58で「宿場町というのがつぶれそうという自分が言ったことについてだけど、宿場町の説明のできる場所を道の駅の中に作ってもらえば、宿場町の東棒鼻、西棒鼻とかそういう歴史のことがわかってもらえる。」と発言し、宿場のよさを生かすことを真剣に考えている姿勢をうかがうことができた。授業のまとめで感想を尋ねたときも次のように答えた。

- T42 ちょっと視点変えます。多くの子が書いていた環境面。  
 C37 自然がなくなる。  
 C38 児童A 田んぼがつぶれてしまう。  
 C39 ゴミのポイ捨て。  
 T43 みんな資料とか、理由が言えるとさらにいいね。  
 C40 地域の人々が言っていたのですが、車がなくなって排気ガスが増える。  
 C41 君の意見に関連して、排気ガスがきたなくなると病気になる人が出てくるかもしれない。  
 C42 車が通っていくと騒音がうるさくなって人の迷惑になる。  
 T44 A君 違う視点をあげていたよね。  
 C43 児童A 宿場町っていう藤川のまち自体がつぶれてしまいそう。  
 T45 意味分かる？どうして、どういうこと。  
 C44 人が来るのはいいんだけど、それだけ藤川の宿場の雰囲気なくなってしまう。  
 C45 道の駅の建物がきらきら、ちらちらして、はではでのものだとそれこそつぶれちゃうみたい。  
 C46 道の駅のような新しい物が入ってくると、藤川にしかないものがみんな忘れていってしまいそう。

C65 児童A やっぱり、藤川小っていうか藤川のまちの人だけでもこんなに意見があるからもうちょっと町の人とかに聞いて、もうちょっといい案を出して、それをなんか本当にまちづくり研究会の人たちに聞いてもらって、そうやってなんかそういうのができるといいです。

T62 あなた不安でしたよね。まだどうですか今は？

C66 児童A 今なんかふつうにちょっとくらいは大丈夫だと思うんですけど、でもまだやっぱりまちの人たちの声をあんまり聞いていないので、特にあの田んぼの近くの人たちの声が、何か理由とか生活に関わりがあると思うのでその辺の人たちの意見を聞いてみたいです。

藤川の町、藤川宿のよさを残したいという視点から道の駅建設には反対の姿勢を取っていた児童Aであるが、地域の人々の思いをたくさん聞いて、さらにこの問題について広い視野で考えようとする共生意識をこの感想から感じた。

自分たちの意見を「まち・みち創造交流プロジェクト検討会」に提出しよう。

話し合いの結果は、パワーポイントでまとめ、みなで個々の意見を発表し合った。道の駅建設に関して、クラスでまとめた意見と個人個人の意見、学区の方に調査したアンケート結果、道の駅の建物やキャラクターのアイデアスケッチを第3回の「まち・みち創造交流プロジェクト検討会」に提出することになった。児童Aは、最後まで自分の考えを決めかねていた。「自然を守りたい、藤川宿のよい雰囲気を守りたい」という個人的な意見と「藤川の活性化のためには、道の駅は必要」という地域の多くの人

## 自分の意見

ぼくは、道の駅を作るのには[反対]の意見です。ぼくの意見では、道の駅を作ってしまうと、田んぼがつぶれてしまうからです。だから作られるのには反対意見です。それに、道の駅を作って、東海道の藤川の町がつぶれるかもしれないからです。それに、車やトラックなどが、通るようになってしまい環境が悪くならないかも心配です。だから、道の駅には反対です。

児童Aの個人意見



助役さんに意見書を提出する児童Aと児童B

々の意見との間で葛藤していた。特に道の道の駅建設のために自分の田んぼを手放す覚悟の総代さんの声を聞いて迷ってはいたが、最終的には反対の意見を提出した。

## わたしの意見

わたしは、この道の駅の計画に対して期待の方が大きいです。藤川の町には店や藤川の歴史を知る資料館などが少ないのでその点に関しては、とてもうれしいです。だが、しかし、そういう建物をつくるということは人がたくさんきます。それで事故が多くなり、学生の集まりの場になったり、地域の人たちから音などの苦情がきたりすると思います。なので、わたしは道の駅付近に派出所を作ったらいいいと思います。派出所をおいて24時間警備にしたら事故や、苦情が少なくなると思います。お願いします。

児童Bの個人意見

## 道の駅について期待されること

- 藤川の発展・観光面について
  - 道の駅にいろいろな人が来て、藤川を知ってくれること、藤川が有名になる。
  - いろいろな人が来て町がにぎやかになること。
  - 藤川の町が活性化して、町がよくなったり、生き生きすること。
  - 藤川宿や藤川の歴史のことを知ろうとする人が増える。
  - 休憩ができること。
- 地域の人々の交流について
  - 地域の人が道の駅を通して仲良くなること。
  - (例えば、「つくて、道の駅は、いちごやとうもろこしのもぎ取り体験をやっている。)
- 安全面について
  - もしもの時に、避難場所になったりすること。
  - (新潟の道の駅は、地震がおきたときに避難場所になった。)
  - ドライバーが休憩できるので1号線の交通事故が減る。
- その他
  - ウォーキングやサイクリングの拠点となる。

資料5 児童がまとめた意見書の一部

直接助役さんに意見書を提出した児童Aは、

すごくきん張したけれど、6年2組の全員の意見を助役さんに渡されてよかったです。部屋の中に入った時は、すごく静かです。いろいろなえらい人たちが来ていました。市役所や学区の人などたくさんの方がこの計画に参加していることがわかりました。とてもすごい会に自分たちの意見を提出することができてうれしかったです。ぼくたちの意見が役に立つともっとうれしいと思います。

また、後日、次のような手紙が市役所からクラスに届いた。

昨年12月15日に、みなさんから岡崎市へ道の駅についての期待や思いなどをまとめられた提案書を提出いただき、ありがとうございました。みなさんが住んでみえる藤川地区の活性化につながるいろいろなアイデアがあり、大変参考になりました。この提案書は、まち・みち交流創造プロジェクト検討会委員へ送付するとともに、岡崎市のホームページへも掲載させていただきました。

また、第4回まち・みち交流創造プロジェクト検討会の中で、検討会の会長である小川愛知産業大学大学院教授より、みなさんの取り組みや提案書に対して以下のようなご発言がありましたので、お知らせいたします。

「藤川小学校6年2組の皆さんの提案からは、子供たちの思い入れの強さ、自然が豊かな藤川の特性を子供なりに感じていること、自分たちの町に愛着があるがゆえに藤川をもっと訴えたいという強い思いがあることが読み取れました。」

なお、今年度中に検討会の議論を踏まえた報告書を作成します。その中で、みなさんから提出いただいた提案書についても触れさせていただきたいと考えております。今後も地域の方々と行政で力を合わせて藤川地区の活性化を目指していきたいと考えておりますので、みなさんのご協力をよろしくお願いいたします。

資料6 岡崎市企画調整課からの手紙

行政と自分たちの取り組みの関わりを意識し、共に藤川のまちをよくしたいと願っていることが次の児童Aと児童Bの手紙を読んだ感想からわかる。

A 小川教授さんに自分たちの意見が知ってもらえてとてもうれしかったです。この意見書が生かされて、もっとよい道の駅ができるといいです。ぼくは、道の駅ができるのは、反対の意見でいやだったけれど、自然などの問題点が解決できればいいかなと思いました。もっとも道の駅のことを考えてもらいたいと思います。

B わたしは、この手紙を読んで、わたしたちの意見を取り入れてもらえたことがとてもうれしかったです。これからも、できたら、わたしたちの意見を取り入れてもらえたらいいなと思います。よりよい道の駅を作ってもらいたいと思いました。

## 8 仮説の検証

### (1) 仮説1について

地域教材を扱うことで藤川宿整備など実際のまちづくりの経過を知ることができた。今進んでいる新しいまちづくりは、特に児童の興味を引き、熱心に調査、追究を行った。自分のまち、自分の生活が変わるという意識は、意欲的な学習につながった。そして、自分がくらす地域を見つめ直し、地域を愛する心が育まれていった。児童Aは地域の人々の生の声を多く集め、市役所訪問や意見書提出など積極的に行動を起こした。資料4の授業記録からも児童Aが問題意識を持ちつつ、考えを巡らしていたことがわかる。児童Bは、みんなが調べたことや話し合いの結果を考慮して、資料7にある道の駅の建物やキャラクターのデザイン作成に力を発揮した。道の駅にも藤川宿のよさを取り入れていこうとする思いが表れていた。

### (2) 仮説2について

今回の実践で藤川にくらす人々、道の駅建設予定地にくらす人、まちづくり研究会のみなさん、市役所の人、道の駅で働いている人などたくさんの人と接し、話を聞くことができた。それらの声や集めた資料をみなで共有できたことで共通の資料をもとに考えを深めることができた。道の駅作りに関しては、児童A、Bもみなで集めた地域住民へのアンケートの集計結果をもとに自分の考えをまとめていた。さまざまな考えにふれる中で試行錯誤しながらも児童は、自分なりの意見を構築することができた。

### (3) 仮説3について

児童Aは、多くの児童が道の駅建設に肯定的な意見を述べる中、意見書提出段階では、藤川の自然を守ることや宿場の雰囲気がかくづれることを心配して、道の駅建設に反対する意見を訴えた。しかし、その後、まち・みち交流創造プロジェクト検討会に同席したり、仲間と意見を交換したりする中で「自然などの問題点が解決できればいいかな」と思いました。」と条件付きの反対に意見を変えている。立場の違いによるいろいろな意見は、児童の思いをゆさぶりつつ、思考の幅を広げた。

また、実践(4)で述べたように児童の意見は、実際に市に届き、岡崎市役所企画調整課のホームページで公開されている。市がまとめた「藤川地区のまちづくり～交流と賑わい創出による地域振興～」という報告書にも児童の提案が載った。児童A、Bの感想にもあるように自分たちの意見が検討会で取り上げられたことは、大変うれしく達成感を得たようだ。「自分たちも地域のまちづくりに関わっている」という共生意識を高めることができた。

## 9 おわりに

今回、児童は、これまでとこれからの藤川のまちづくりについて調べ、考えを表したことで、自分たちも社会の構成員であることを自覚しつつある。児童は、意欲的に自分の足を使って、地域の人々とふれあい、人々の声を集めた。藤川の新しいまちづくりについて大人任せでなく、自分なりに考え、意見を表したことは成果である。

現在進行中のまちづくりを調べることで、人々の日常生活の安定と向上を図るために、地方公共団体や国の政治の働きが大きな役割を果たしていることを児童は理解していった。

本研究では、ワークシートに書いた児童の文章や児童が作成した提案資料、意見書などで評価を行ったが、評価のあり方や生かし方を明確に示すことができなかった。教師の評価や児童の自己評価を生かしつつ単元を作っていくことができなかった。今後の課題である。

児童は、地域の人々とともに共生社会をめざす第一歩を歩み始めた。これからも藤川の新しいまちづくりに、関心を持ち、共生社会をめざす子どもたちであってほしいと願っている。

## 資料7 岡崎市企画調整課ホームページの一部

**掲示板**  
冒頭で紹介しましたが、藤川小学校6年2組のみなさん、貴重な提案をありがとうございました。



(提案の一例)

---

**問合せ先**  
岡崎市企画政策部企画調整課  
電話 0564-23-6452  
E-MAIL [kikakuchosei@city.okazaki.aichi.jp](mailto:kikakuchosei@city.okazaki.aichi.jp)



2007年(平成19年)3月24日(土曜日)

岡崎市東部地域の藤川地区などの活性化について検討する「まち・みち交流創造プロジェクト」検討会が、報告書「藤川地区のまちづくり、交流と賑わい創出による地域振興」をまとめた。有識者らによる意見のほか、地元小学生たちが調査を基に調べた成果が盛り込まれた。

藤川地区では市東部地域名古屋線藤川駅西側の踏切封鎖を含む藤川駅のバリアフリー化、国道1号沿いの道の駅誘致などの大規模事業が予定されている。これらの事業を踏まえ、

# 元気な藤川に必要なものは？

**岡崎の検討会が報告書**

## 地元児童の調査も紹介

検討会は昨年七月から今年一月にかけて四回開かれ、地域の課題を深めた。報告書では、周辺道路の整備の必要性など地域が抱える課題、今後の対応などについて報告している。

地元の藤川小学校六年二組の児童たちが調べた内容は、資料編に盛り込まれた。児童たちは、聞き取りや学校での学習から道の駅の賛否の意見を話し合ったり、道の駅のイメージキャラクターや見取り図などを自由な発想で描いた。報告書はA4判百二十六ページ、市中央図書館と市役所二階の市政情報コーナーで



閲覧できるほか、ホームページにも掲載されている。(栗山真悠)

地元を歩いて調査する藤川小児童たち—岡崎市藤川町で

**資料8 新聞に掲載された記事**